

「読書感想文」への応用方法は、ズバリこれ！

誰もが困った経験のある、「読書感想文」の書き方・考え方を、伝授しましょう。

ここでも、64ページで述べた手順を厳守します。

まず骨組み！ 次に肉つけ。

これを守らないと、失敗します。失敗の最たる例は、これです。

ものがちほんぶん「部分的抜き書き」作文になってしまふ。

人物の、きわめて具体的な行動やセリフ、すなわち肉づけ部分を、これでもかというくらいに抜き書きして、羅列してしまふのです。

これを避けるためには、次の具体的な操作が有効です。

書くときは、思い切って本を閉じる！

なぜ、あらずじとすら言えないような「部分的抜き書き」作文になってしまふのか。それは、物語の本文に頼り切っているからです。もっと言えば、本を開いているからです。まず、本を閉じましょう。そして次は、これです。

心に残った「変化」を探す！

最も分かりやすいのは、主人公の心情変化です。

世の中のほとんどの物語は、主人公の成長を描いています。それは、身体的・能力的な変化・成長の場合もありますが、何よりもまず、心情の変化です。ここで言う「心情」には、「ものの考え方」なども含まれます。これらは多くの場合、「人間関係の変化」をとおして語られます。そして、これらのあらゆる変化は一般に、対比的になります。マイナスからプラスへの対比的变化を遂げるのです。そこで、最後はこれです。

自分自身が体験した「対比的变化」と重ね合わせる！

さあ、続きは、120〜123ページで勉強しましょう。